

提供日 2014/09/01  
タイトル 「デング熱」の国内感染症例が確認されました  
担当 危機管理部 危機報道監  
連絡先 健康福祉部 医療健康局 疾病対策課 感染症対策班  
TEL 054-221-2986



## - 危機管理情報 - ~ 「デング熱」の国内感染症例が確認されました ~

デング熱は蚊がウイルスを媒介する4類感染症であり、アジア・中南米・アフリカなど熱帯・亜熱帯地域で主に発生しています。世界中で毎年5,000万人～1億人の患者が発生していると考えられており、近年、日本では、海外で感染し帰国後発症する輸入症例が年間約200例報告されています。

過去60年以上、日本国内での感染報告はありませんでしたが、今般、さいたま市の海外渡航歴のない女性が国内での感染症例として確認され、その後も数名の国内感染症例が確認されています。

限定された場所での一過性の発生と考えられ、蚊に刺されただけで過分に心配する必要はありませんが、海外では流行している地域もありますので、海外から帰国後等、発熱などの症状がある場合には、医療機関を受診してください。

### 【病原体・感染経路】

- 原因となる病原体は「デングウイルス（フラビウイルス科フラビウイルス属）」
- 媒介蚊は「ネッタイシマカ」と「ヒトスジシマカ」です。日本国内に「ネッタイシマカ」はいませんが、ヤブカの一種である「ヒトスジシマカ」は青森県以南のほとんどの地域に生息しています。
- ヒト - 蚊 - ヒトの感染経路をとり、ヒトからヒトへ感染することはありません。
- 感染者を刺した蚊がウイルスを保有することがありますが、蚊から蚊へウイルスが媒介されることはありません。また、国内では原因ウイルスを保有する蚊がいたとしても、冬を越えて生息することはなく、卵を介して次世代にウイルスが伝わることも報告されたことがありませんので、今回の事案は、限定された場所での一過性の発生と考えられます。

### 【症状・治療方法】

- 潜伏期間は3～7日で、発熱（ほぼ必発）、発疹、頭痛等を呈します。
- 通常、発症後2～7日で解熱し、予後は比較的良好な感染症ですが、発症者の1～5%が出血傾向やショック症状を呈し、重症となることがあります。
- 現状では有効な治療法は確立しておらず、対症療法を行うこととなります。

### 【予防】

ワクチンはありませんので、海外の流行地等へ出かける際は、蚊に刺されないように注意しましょう。長袖・長ズボンの着用や、忌避剤の使用が推奨されます。

### 【参考：厚生労働省のホームページ】

- 報道発表資料  
（第一報）<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000055605.html>  
（第二報）<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000055834.html>
- デング熱に関するQ & A  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue\\_fever\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever_qa.html)